

従業者向け

放課後等デイサービス評価表

| 事業所名 | 放課後等デイサービスさばてん | 公表日 | | |
|---------|---|-----|-----|---|
| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など |
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | ○ | | 利用者の興味関心や持っている能力に応じて、プレールーム・居室・別棟の部屋・中庭スペース・屋外グラウンドを使用しています。また、近隣の施設（公園・体育館等）を活用することもあります。 |
| | 2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | ○ | | 支援の質と安全性を考慮し、職員の人数を基準より多く配置しています。 |
| | 3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | ○ | | ・玄関にはスロープを設置し、フロア・居室・廊下の間に段差がない設計にしています。 ・設定活動と活動場所は常に同じにして、「この場所では○○の活動をする。」という見通しが分かり易く持てることを大切にしています。 |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。 | ○ | | ・活動終了時と翌日の朝は、消毒と掃除をしています。活動の内容に合わせた場所を使用し、プレールームでは集団で落ち着いて取り組める内容、身体を使ったスポーツはグラウンド、小集団で行うSSTは、少し小さな活動場所で取り組んでいます。 |
| | 5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | ○ | | ・体調不良や情緒が不安定で配慮が必要な時は、いつでも静養室を使用できるようにしています。 |
| 業務改善 | 6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | ○ | | 活動記録や個別支援計画を基に活動内容をしっかりと振り返り、課題や手立てを見直しています。また、非常勤職員を含めて、毎日のミーティングや定期的に開催している職員会議で情報を共有しています。 |
| | 7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | 毎年、参考にさせて頂いております。 |
| | 8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | ・定期的に常勤会議を開催し、情報共有と意見を交換をしています。その内容は、即座に業務改善に繋げています。 |
| | 9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | ○ | | ・特定非営利活動法人である強みを生かし、年に2回理事会を開催し運営状況等の報告や検討を行っています。 ・業務内容全般に関しては社労士・税理士や県の事業である訪問相談を活用して助言を受けたり改善につなげています。 ・事業所説明会を開催するなど、地域の同じ放課後等デイ事業所と横のつながりを作ることで開かれた環境を整えています。 ・外部の公認心理士のコンサルテーションを定期的に開催し、偏りのない指導内容の改善に繋げています。 ・年1回の保護者アンケートの内容を参考にし業務に繋げています。 |
| | 10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | ○ | | ・毎週金曜日の午前中に学習会を開催し、オンライン研修やDVD資料・書籍を活用しながら積極的に学んでいます。また、年3回、臨床心理士に来ていただき、事例研究を行っています。 ・その他、外部の研修会等に参加する機会を保障しています。 |
| | 11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | ○ | | ・作成して公表しています。 |
| | 12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | ○ | | ・応用行動分析を基に子どもの行動の背景を分析し、望ましい行動や事前の対応の工夫、配慮事項を検討しています。 ・月1回、公認心理士に子どもの様子や取り組み内容を観察して頂き、それを基に年3回コンサルテーションを実施しています。 |

| | | | | |
|----------|----|--|---|---|
| 適切な支援の提供 | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | ○ | ・毎回、児童発達支援管理責任者の管理の基で、活動指導案を作成しており、その内容は毎日のミーティングで全体で共有して、最善の支援を考慮し検討して、PDCAサイクルに繋げている。 |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | ○ | ・個別支援計画は個別のファイルで管理する以外に、ラミネートして常時確認できるように見やすい場所に保管しています。それを基に、活動指導案を毎日作成し、日々の活動記録には個別の活動のねらいを記入しているので、計画に沿って放課後等デイサービス計画を共有しやすい環境を整えています。 |
| | 15 | 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | ○ | ・保護者から提供して頂ける発達検査の結果や、毎日記入している子どもの観察記録や、必要に応じて作成している応用行動分析に基づくアセスメント表を使用して、子どもの状況を確認しています。 |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | ○ | ・個別支援計画には、「本人支援」として子どもの支援に必要な項目を適切に設定しています。具体的には、毎日作成している活動指導案に、子どもの個別のねらいと手立て、配慮事項を記入しています。「家族支援」では、保護者のニーズを基に支援内容を記入し、面談等での対応を設定しています。また、関係機関との連携や、ケース会議等も必要に応じて実施することを明記しています。 |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | ○ | ・活動プログラムを(活動指導案)を担当の支援者で分担、作成して児童発達支援管理責任者が確認すると共に、週1回は常勤の支援者全員で指導案会議を実施し、検討しています。 |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | ○ | 子ども達が興味を持ち積極的に取り組む事ができるよう工夫して毎日多彩な活動プログラム(活動指導案)を作成しています。 |
| | 19 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | ○ | 個別支援計画を基に、個人の発達課題に応じて自立課題を設定しています。集団活動の取り組みでは、友だち関係の広がりやコミュニケーション能力の向上を大切にした取り組みを行っています。 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | ○ | ・毎日、子どもが来所する前に支援者ミーティングを1時間行っています。 |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | ○ | 毎日、活動の振り返りの話し合いを行っています。 |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | ○ | 毎日、行動記録をとり定期的に子どもの様子を振り返っています |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | ○ | ・年二回のモニタリングを実施し、モニタリング終了後はその内容を検討し、放課後等デイサービス計画の見直しを行っています。 |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。 | ○ | ・「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援するうえで、「本人支援」「家族支援」「地域支援・地域連携」の観点を大切にして、支援しています。 |
| | 25 | 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | ○ | ・周囲の状況や、「何をどのようにすることを求められているのか」について理解し易いように、言葉かけや写真カード等で選択肢を提示すると共に、自分の意思を明確にして「自己決定」できる機会を大切にして、子どもの願いを尊重しています。 |
| | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | ○ | ・サービス担当者会議や関係機関との会議等には、児童発達支援管理責任者や対象児童を担当している支援者が参加しています。 |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | ○ | ・必要に応じて、相談支援専門員に連絡し、関係機関と連携して支援会議等を行う体制を整えています。 |

| | | | | |
|--------------|----|--|---|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | ○ | ・学校行事等の情報は、基幹相談センターが一括して地域の各事業所に連絡する体制がでています。また、児童に関する個別対応では、必要に応じて学校から記入された用紙で把握すると共に、直接学校に電話連絡して児童の様子を聞き取る連携体制がでています。 |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | ○ | ・児童発達支援センターとは、保護者の了解のもと情報の引継ぎ体制がでています。また、必要に応じて、情報共有やアドバイスを受けています。 |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | △ | ・直接、障害福祉サービス事業所等に情報共有するケースはこれまでありませんでした。相談事業所を通して、情報共有しています。 ・今年度高等部を卒業する利用者で、障害福祉サービス事業所等へ移行するケースがあり、行動障害等の課題が多くあり積極的に情報共有しています。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパー・バイトや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | ○ | ・連携を行い情報共有やアセスメントを行います。 ・臨床心理士を招き、事例を挙げてのコンサルテーションを定期的に実施し検討や助言を得る機会を設けています。 |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | | × ・今後交流の機会を作っていく予定です |
| | 33 | (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。 | ○ | ・出来る限り参加しています。 |
| | 34 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | ○ | ・保護者との日頃の情報共有を大切にしています。 ・必要に応じてお迎えや送迎時に伝えたり、電話で詳しく説明したりしています。 |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | ○ | ・障がい特性への対応や考え方などを保護者と共有します。必要に応じて、ご家庭でのお困りごとへの対応を共有したり、支援ツールを作成したりしています。今後研修等についても検討します。 |
| | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | ○ | ・利用契約時に詳しく説明すると共に、年二回のモニタリング時に必要に応じて説明しています。支援プログラムについても、今後丁寧に説明する機会を設けています。 |
| 保護者への説明等 | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | ○ | ・モニタリング時に個別支援計画に記載されている、「本人や保護者の願い」について確認し、丁寧に子どもと保護者の意向を聞き取っています。 |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | ○ | ・モニタリングで個別支援計画を説明して意思の確認をして、同意を得ています。 |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | ○ | ・面談や電話での相談だけでなく、必要に応じて関係機関と連携して、適切な支援内容を検討し、助言と支援を行っています。 |
| | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | △ | ・昨年度より父母の会と連携して、地域課題である子ども達の放課後のより良い過ごし方についての検討を始めています。 ・事業所主体で、保護者同士で交流する機会や兄弟同士で交流する機会を作る事までは出来ていません。 |
| | 41 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | ○ | ・児童発達支援管理責任者を中心に、対応する努力をしています。 |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | ○ | ・HPで活動の内容や写真を公開しています。今後も積極的に発信していく予定です。 |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | ○ | ・個人情報の扱いを徹底し、施設外に持ち出さないようにしています。ただし、関係者会議等については保護者の同意を得ています。 |

| | | | | |
|---------|----|--|---|--|
| 非常時等の対応 | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | ○ | ・視覚支援を使いながら、情報を伝達しています。例えば、毎月の活動カレンダーをイラスト付きで配布し、子どもにも分かり易く工夫しています。 |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | ○ | ・一般の方から見学の申し出があった場合はできるだけ受け入れています。また、日本鼓練習している和太鼓の発表会では、地域住民の方にも誘い掛けています。 |
| | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | ○ | ・台風、感染症等の緊急時の対応のお知らせを隨時配布しています。防災訓練の実施報告も行っています。今後もマニュアルや取り組みの周知改善に取り組んで参ります |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | ○ | ・避難訓練を毎年行っています。法人のBPC計画をもとに備蓄品などの点検やその他整備をしていきたいと思います。 |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | ○ | ・保護者からの情報を管理し、服薬や発作について確認しています。 |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | ○ | 保護者から、医師の指導のもと適切な指示を受けている。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | ○ | ・安全管理は日々確認しています。ヒヤリハット報告書を通して、業務改善を常に行ってています。危険のない様な活動の設定もしています。 |
| | 51 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | ○ | ・必要に応じて、安全確保に関する内容を、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)に記載しています。 |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | ○ | ・定期的にヒヤリハットの事案を共有しています。 ・ヒヤリハットの事案が生じた時には、設定された項目に沿って記載して、再発防止に努めています。 |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | ○ | ・虐待防止委員会設置して、虐待防止について検討と実践を行っています。また、虐待研修を行い適切な検討を全体で共有しています。 |
| | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | ○ | ・やむを得ず対応が必要であると判断した場合、モニタリングで保護者に説明したうえで了解を得て、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)に記載していきます。 |